

# 2001年を迎えて

## 世界で一番信頼される「ベスト・ソリューション・パートナー」をめざして



日立製作所 取締役社長

庄山 悦彦

日ごろより「日立評論」をご愛読いただき厚く御礼申し上げます。「平成13年度の日立技術の展望」号をお届けするにあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

本年は21世紀最初の年です。1910年に銅山付属の電気機械修理工場として創業した日立が、本誌でご紹介いたしますような幅広い製品群を擁する世界的な企業として新世紀を迎えたということは、その間の社会的変化や国際化、新しいライフスタイルの登場などを考え合わせますと、誠に感慨深いものがあります。

今日の経営環境を見ますと、世界規模のメガ・コンペティション時代の到来や、インターネットを核とするグローバルなネットワーク社会の出現により、ビジネスや社会のパラダイムシフトが起こっています。このような時代にあっては、お客様の求める製品、必要とするサービスを他社に先駆けてご提案、ご提供できる企業だけが存続、繁栄していくものと思われまます。

こうした中で日立は2002年度に向けた中期経営計画「i.e. HITACHIプラン」を発表し、お客様の「ベスト・ソリューション・パートナー」となることを宣言いたしました。これは、お客様の最良のパートナーとして最良のソリューションをご提供していくという決意の表明であり、インターネットに象徴されるIT革命の奔流の中で、お客様とともに新しい価値を創造していくという日立の姿勢を示したものです。

「i.e. HITACHI」という表現には、情報エレクトロニクス（information electronics）を原動力として日立を変えていくという意味を込めました。これまでの日立は、お客様のご要望を受け、優れた品質で高い生産性を発揮できる製品を提供してきました。そのことを私たちは誇りとしていますが、日立は今、情報エレクトロニクスに支えられた「知識」と「IT」を駆使し、お客様のニーズ、ウォンツに対応した最適なソリューションをご提案、ご提供できる企業をめざしています。

日立には、これまで培ってきた電力・交通・金融システムなど大規模な社会インフラシステムを取りまとめてきた広範な実績とノウハウ、さらにライフサイエンスに代表される最新技術分野ノウハウ、パートナーとのアライアンスによる先進的・多角的なノウハウがあります。こうしたノウハウこそが日立の「知識」であり、これからもお客様に積極的にご提供していきます。

また日立の「IT」は、大規模で信頼性の高いシステムを構築してきたシステムインテグレーションの技術力であり、付加価値の高いビジネスソリューションを創出する日立の技術力は世界でもトップクラスの水準にあります。

この日立の「知識」と「IT」を、情報システム分野に限らず、電力・産業システム、家電、半導体、ディスプレイ、交通システムなどの各分野で活用することはむろんのこと、環境、エネルギー、遺伝子解析などのさまざまな新しい事業領域で、お客様に最適なサービスやソリューションをご提供することにより、日立全体がお客様のベスト・ソリューション・パートナーとなることを目標としています。

一方、これからのネット社会を考えますと、セキュアで使いやすいネットサービスが非常に重要になってくると思います。当社は、理想のネット社会をめざす日立のネットサービスの総称として、「Cubium（キュービウム）」という日立グループ統一ブランドを立ち上げました。このブランドをオール日立のネットサービス事業に展開し、今後も多くの幅広いサービスをご提供していきたいと考えています。

私ども日立は、次の時代に新しい息吹を与え続けるという決意を示すコーポレートステートメント「Inspire the Next」のもと、お客様から世界で一番信頼していただける、21世紀の「ベスト・ソリューション・パートナー」をめざして努力してまいります。皆様の一層のご指導とご支援を賜わりますようお願い申し上げます。